

## INTERVIEW

町立八丈病院 小児科  
藤井浩一先生



【プロフィール】 藤井浩一先生 東京都出身。1994年自治医科大学卒業、1996年昭和大学小児科学教室入局。都内の各離島赴任後、都立荏原病院小児科を経て町立八丈病院小児科に勤務、現在に至る。趣味は声楽・写真・山歩き。

# 「小児の病気なら 何でも診られる」という 自負をもって

聞き手：山田隆司 公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所所長

## 小児科医を目指しながら、ジェネラリストとして島へ

山田隆司(聞き手) 今日は町立八丈病院に藤井浩一先生を訪ねました。今、私は東京都のへき地医師確保協議会でこの院長の村井邦彦先生(町立八丈病院 産婦人科)と一緒に委員を務めており、離島の医療の現状や問題点についてもお話が繋がればと考えています。先生とお会いす

るのは久しぶりですね。

藤井浩一 そうですね、4年ぶりです。ご無沙汰しておりました。

山田 まずは先生の経歴、それからどういった経緯でここに赴任されたのかをお話しいただけますか。先生は自治医大を何年に卒業されたので

すか。

**藤井** 卒業年度, 覚えてないのですよ(笑). 何期生になるのかも分らないです(笑). 私は大学に長くいたのですね. 本当は音大の音楽志望でしたが, 受験中に父が亡くなったのです. 父が医者だったので, 成り行きで自治医大を志望することになりました. でも大学にいるときもチャンスがあれば音楽の世界に行きたいなと思ったりしていました.

**山田** では医療に対して強い志があったわけではないのですか?

**藤井** はい. 医者になってよかった, 面白いなと思うようになったのは神津島に赴任してからです.

**山田** 初期研修はどこで受けたのですか.

**藤井** 都立広尾病院です. 3年目は広尾病院の小児科です.

**山田** 初期研修のスーパーローテートが終わって3年目が広尾病院の小児科ということは, 3年目でもう小児科へ行こうと決めていたのですか.

**藤井** 当時の上の先生が小田島安平先生という昭和大学小児科出身の先生で, その先生が国立小児病院のアレルギー研究棟の研究所長だった飯倉洋二先生のところに紹介してくださったので, そこで研究しながら, 小児科の外来は広尾で研修をするというかたちをとらせてもらいました. そこからですね, 小児科へ行こうと本当に決めたのは, それまではどちらかというと外科系, 特に小児外科を希望していたのですが, 私は腰が悪くて, オペ中に腰が痛くなるのですよ. これでは外科は無理かなと思って, でも子どもを診たいというのはありました. また大学にいるころから薬理が好きで, 薬物動態なども子どもはととてもシンプルにできている部分があるということもありました.

ちょうどタイミングだったのですが, 国立小児病院の研究棟のほうに通うようになったと

きに, 飯倉先生が昭和大学の教授に赴任することになり, 私のオーベンになった先生も含めて何人かの先生を引き連れて昭和の医局に入るというかたちになったのです. 私は広尾病院のあと4年目から神津島へ赴任しましたが, 昭和大学の飯倉先生のもとで2つ以上論文を出すことで医局にいる換算にしてもらうことができました.

**山田** 神津島へは東京都の義務内派遣として赴任したのですか?

**藤井** そうです.

**山田** 神津島は医師2名が派遣されていますが, 当時もう一人はどこから来ていたのですか.

**藤井** 都立広尾の内科からです. 都立広尾からは3~6ヵ月のローテーションでした.

**山田** 神津島には何年間いたのですか?

**藤井** 3年間です. 島はとても気に入ったので楽しかったですね.

**山田** 東京都の卒業生で離島に3年間継続していたのは, 当時では初めてだったのではないですか.

**藤井** 当初, 最長2年間といわれていましたが, そのころちょうど神津島診療所が透析を始めたので3年目までOKという形になりました. 逆にもちろん島が合わない人もいるでしょうが, でも3年ぐらいがちょうどいいのかなと思いました. あと1, 2年長くいられたら, もっといろいろできたのになあと思うことはたくさんあります.

**山田** そうですね. 今は島民は2,000人以下だと思いますが, コンパクトでいろいろやるにはいいですね.

**藤井** 神津島にいたときのほうが, 今よりも研究データを取りやすかったですね.

**山田** 神津島ではストレスはありませんでしたか?

**藤井** 診療面ではそれほどにストレスはなかったですね. ただ, やはり今のように診られなかったので…今は子どものどんな病気が来ても診られ